

朝野新聞

一口小猫との云て侮りたまふ  
 泥中にも蓮花ありといふ小舟町  
 住む車夫の娘で去年迄より町を  
 蕪敷とて居る何某の顔も相応で  
 心も善く遂に成田辺の豪富が泥  
 水と洗つて連を行は此頃病氣つぎ兼  
 用も効み故保養のさあ且ハ母の安  
 否と尋ね芝居や梅見ゆも往けと  
 十分小當とて出京させし  
 先母の許へ立ち小母親の専主乃  
 大酒小困り果離縁と賞ふと談  
 判最中なると種々小育めをさま  
 睦敷とて更や互ひ小勘弁とて落  
 て下ふその替り私ハ芝居の足す  
 ともまのひのお金の両人一上まを  
 涙さぐり異見小母親もさぢ入父の  
 吞ぬを先生も閉口して双方とも  
 丸く納まつことこの實の憾心ること  
 かと長家中で評判にて居ま



明治十一年 柳 届  
 三月十八日  
 蛸壳町三百九番地  
 西工山崎徳三郎  
 南博馬町二丁目二番地  
 出板人 吉 藏